

放送番組を活用した道徳的価値に迫る授業設計とその実践

—学校放送番組の教育効果を活用して—

片岡義順（川崎市立新城小学校）・堀田博史（園田学園女子大学）

概要：道徳の時間に道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めていくためには、授業の中で扱う価値や関連する価値について議論したり、考えたりする授業設計が必要である。道徳の時間に NHK 学校放送番組「ココロ部!」「オン・マイ・ウェイ!」を活用することで、ねらいとする道徳的価値についての葛藤場面をクラス全員の児童が理解し、対話や思考することを通して価値への理解を深めていくことを繰り返し行ってきた。本研究では、児童の変容・番組活用の効果から授業設計のありかたとその実践について検証する。

キーワード：放送教育, NHK for School, 特別の教科道徳, 考える道徳, 全国放送教育研究会連盟

1 はじめに

学校放送番組を教育活動に取り入れることで期待される効果が、1966年文部省発行の学校放送の利用^[1]でまとめられている。この教育効果については、2005年度東京都幼稚園・保育所放送教育研究会作成の「放送教育ガイド」^[2]や2015年度の全国放送教育研究会連盟「子どもが生き生きと学ぶ放送学習プロジェクト」^[3]中間報告会の実践研究報告会においても教育的課題が時代とともに変化していく中で、変わらない効果があることが報告されている。

「学校放送の利用」で述べられている12の教育的効果のうち、「新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる」「未経験あるいは追体験の困難な事物や事象に対して、具体的な理解の手がかりを与える」「事象の関係、構造、過程などを要約した形で示し、事象の全体的な理解を容易にする」「情緒に訴え、望ましい心情や態度を育てる」については、平成27年度7月文部科学省発行の小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」^[4]で述べられている指導内容の工夫と関連している。指導要領解説では、『教材に対する感動を大事に展開したり、道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切にした展開、知見や気付きを得ることを重視したりする展開などの学習指導過程や指導方法の工夫が求められる』(p80)と述べられている。

学校放送番組を道徳の授業設計に取り入れる

ことで、道徳的価値についての理解を基に、考えを深めることができるかどうか検証をした。

2 研究の方法

(1) 調査対象および調査時期

- ・期間：2016年4月～7月
- ・対象：川崎市立新城小学校5年生28名

(2) 分析方法

- ・活用番組は「ココロ部!」(5年生道徳)と「オン・マイ・ウェイ!」(5年生道徳)
- ・検証方法

① ワークシート記述内容の分析

授業で扱う道徳的価値について授業前と授業後における記述の変化や道徳的価値に触れる記述の分析を行った。

② 視聴前と視聴後に実施したアンケート(4段階評価)

学級開きした4月当初と番組の視聴後に4段階評価によるアンケートを実施して、有意差を分析した。

3 結果と考察

(1)「ココロ部!」第4回「みんなの自由な公園」を活用した授業実践 道徳の内容項目 善悪の判断、自律、自由と責任(A-1)

本実践の前に5年生児童に「自由」についてのイメージを記述させた。本時では、視聴後の児童がまずは個で考え、その後グループで話し

合うという流れで進めた（表1）。

表1 授業の流れ

①番組視聴→事前は番組名の紹介
②感想交流→視聴後の感想やつぶやきから話題を扱う道徳価値についての話題を広げていく
③考えをワークシートに書いて発表 →個人で考える
④ポイントの整理→考えたことを出し合い、その後多様な立場から思考し、考えを交流していく
⑤自分自身の生活を想起して再思考する
⑥全体での意見交換

児童は、番組内で起こる葛藤場面や、思考したり意見交換したりする活動を通して、多様な見方や考え方を理解した。多面的・多角的視点から考え続ける姿勢が児童の発言やワークシートに表れていた。授業後半では、番組内容を参考として、自らの生き方や考え方へと目を向ける発問を投げかけた。授業後に再度、「自由」について記述させたところ、自分を中心にしか考えることができていなかった児童が、授業後には他者や社会とのかかわりの中で考えている記述へと変容していった。（表2）

表2 授業前後の自由についての児童の記述

	授業前	授業後
A	何でもできる 思ったことができる 何時間でもゲームできる	自分と相手の自由はどちらも大切。少しは我慢しなきゃいけないことも含めて「自由」
B	何をやってもおこられない 何をしてもいい	今日の学習を通して、相手も考えて本当に自由になるんだと思った。

（2）「オン・マイ・ウェイ！」第7回「ペットの命を守るには？」を活用した授業実践 道徳の内容項目 D-20 自然愛護

教室では、メダカの飼育に取り組んでいる最中であった。その中でペットの命というに日常の中でも関わりがある教材について授業を行った。授業前からペットの命は大事にしなければいけないという意識は児童の中で育っていた。番組では、現実には起きているペットの殺処分とそれに携わる人の思いに触れることで、単に「ペットの命は大事」ということだけでは済まない事実を心情に訴えかけられながら考えることになった。そのうえでペットの命をどのようにと

らえ、向き合っていくのかを児童それぞれが自分なりに考えていくことができた。

表3 児童のアンケート結果（平均値と有意差）

ココロ部！	** $p < .01$, * $p < .05$			
授業に集中して取り組める	3.36	3.64	0.56	*
学習のめあてをつかむことができる	3.25	3.61	0.63	*
考えや意見をわかりやすく伝えられる	2.96	3.32	0.86	**
放送番組を使った学習はわかりやすい	3.54	3.89	0.31	**
オン・マイ・ウェイ！	学習前	学習後	標準偏差	p
授業に集中して取り組める	3.36	3.68	0.48	*
学習のめあてをつかむことができる	3.25	3.61	0.50	**
考えや意見をわかりやすく伝えられる	2.96	3.29	0.85	n.s
放送番組を使った学習はわかりやすい	3.54	3.89	0.31	*

授業後のアンケート結果から、番組を活用した授業に集中して取り組み、わかりやすいという点で有意差がでている。教材（番組）の内容を理解し、考えたり意見を伝えたりする活動の項目でも効果が表れている。

4. まとめ

学校放送番組の効果を意識した授業設計により、児童は授業の中で考えたり議論したりする視点が、扱う道徳的価値から逸れることなく定まってくる。番組自身にも心情に働きかける工夫がされていて、特別の教科道徳の感動を大事にした授業展開、考える道徳・議論する道徳の実現につながっていくことが明らかになった。

参考文献・ホームページ

- [1]「学校放送の利用」文部省（1966年）
- [2]「放送教育ガイド」全放連・東京都幼稚園・保育所放送教育研究会作成（2005年）
- [3]全放連子どもが生き生きと学ぶ放送学習プロジェクトHP（2016年8月16日）
<http://www.zenporen.jp/ikirutikara/index.html>
- [4]「小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編」文部科学省（2015年7月）